

自
年
月
日

郭松齡反事件關係

一件

般汝耕等劫民府分
館(避難及脱出關係)

第
卷

郭松齡反事件關係

一件

般汝耕等劫民府分
館(避難及脱出關係)

A
6
1
2
71

REEL No. A-0746

0055

アジア歴史資料センター

之
之

官送先

(今通/6/27-1)

會文人情條通 亞細亞
計書事報約商米

大臣

電信課長

13055

晴

本有看たら十四年十二月廿七日午前七。

常外務大臣

吉田總領事

第九二號(五六日迄)

第十廿第一二二二號(五六日迄)

郭軍外交所般世耕 育世美
盧春香 柳夢周 蘇士明 陸
軍大學堂 是學出 何成懷 及般
有柳子厚 劉友惠 柳八右 廿
四日 郭新氏 府方館 逃込 係
護 勤 果 下 去 付 不 取 取 方

件名

總込名 郭新氏府方館 逃込 係護 勤 果 下 去 付 不 取 取 方

重

館内ノ一部ニ收書シテ 係護ヲ加ヘテ
之ニ張字良ハ 分館ニ封シ直ニ右
引協方嚴望ニ申出テ又ニ郭新氏府
ニ引渡シ強要シ来リルヲ以テ 新
五之ヲ峻拒シ目下 當館引取ヲ
折角支拂中
在又公使 上海ニ降下 張家口 郭新
所共官一 郭新氏府

(終り)

引渡サカレニ於テハ本軍ハ領事分館ヲ包围、
上々回リ計ルヤモ知シト幾分脅迫的言辭
ヲ弄シタル事實アル様ノ次第ニ付彼等ハ暫ク
分館内ニ於テ保護ヲ加エ其内機ヲ見最近ノ
機曾ニ当館ノチニテ釋放スルノ外無シ不取敢
警察官五名ヲ新民分館ニ増派スルト共ニ復
具食料等ヲ本官ヨリ寄贈シ出来得ルカケ
優遇シ且可成本件ハ世間ニ騷ヤ止メカ様ノ
方法ヲ講ジ居レリ
在支公使ハ物電ヒリ

寫送先
陸海參軍

會文人情條通歐亞細亞
計書事報約商米

2

大臣

電信課長

13/32 暗76奉天發
如本省著大正十四年十一月二十九日
吉田總領事

第一九五號 (二十一日)
陸軍部第九二號 殷汝耕等解放方ニ因シテ
ハ目下極力交渉中ナルが奉天當局ニ於テハ体面
ヲ損セズシテ結局自由解放ノ内意アルモ戰事
分派リ居ル今日直ニ決行シ難キ内情モアリ又送
還途中暴力奪回ノ憂アリ現ニ荒木五郎
豫備砲兵少尉ハ張學良ノ旨ヲ含ミタリト
稱シ二十日遠山分館主任ニ對シ殷汝耕等ヲ

件名
綴込名

謂ナレ学良ノ為使セルノミト云ハ、学良
ノ顧問タルモ尚帝國侍候ヲ、内山ノ
為ニ無理ニモ途ヲ開キテ其職務ノ
遂リヲ援助ス。キニ非ズヤト詰リタルニ
儀峨ハ自分ニ於テ毫モ阻止ノ意志ナ
カリシハ某ニテ証人トシテ調ヘラセシト
弁セルヲ以テ本官ハ阻止ノ意志トシテ言
明ス以上本官ハ我侍候ノ名譽ノ為ニ
喜ンテ其言ヲ信ス。シ然レトモ内山ノ
列車ハ帰路一時間ニシテ帰レルニ任
路ニ七時間ヲ要シ其日張学良ノ車
ハ折氏モ出ガセルニ内山ハ遂ニ追

從テ許サレ興隆店ヨリ空シク引込
ノ止テキ事實ハ現存ノ学良ノ弁明
ニ至リテハ更ニ改メテ聞カント欲ストモ
テ別レタリ以上ノ経過ノ為急モ散ス。

(終り)

電信課長

大臣

次官

事務

亞細亞

商

通條 人情 文會 米商 報事 計畫

送先

臨時海軍

件名	綴込名

143 時分 奉て 本省着入云丁五年 一月六日午後五時四十分

事務大臣 吉田總領事

第五號 (六日台)

客年米往米第二九五號ニ乗シ
其後米支那側ヨリハ 設け耕オ、引渡
ヲ要求シ米リ多ノミナラス 一時奉軍ハ
分館ハ出入口ニ歩哨ヲ立テ日文人ノ
通りヲ阻止シ 我欲奉軍官ニ對シテモ
脅迫的奉勤アリ 當館ヨリ嚴重
抗議シ右ハ直ニ取止メシメタルニ奉軍ハ

今尚嚴重監視ヲ急ラス 當地ノ總
司令部側ハ本官ノ説明ニテ事柄ヲ
諒シ其何時機ヲ見テ解放スルニ異
議ナキモ何方我勝氣方ノ出先軍
隊ノ手前アルハ 當方館内ニ整居
セシタル外ナカル一ノ依テ分館ニ於テハ
假ニ對シ出来得ル大ノ優遇ヲ與ヘ彼
オニ満足シ居ル
右又公使上海へ取寄セリ。

一、本特使
不直接
送清

要再回

文書課發送		文書課長	
普通		機密	
號		大正	
年		月	
日		附	
附屬書		一通	
主 任		主 任	
管 理		管 理	
受 信		發 信	
人 名		人 名	
陸軍省		外務省	
烟軍務局長		木村五郎局長	
件 名		名 込 綴	
荒木ノ処置並監視兵撤		陸軍省機密	
退交渉方ノ件			
御参考ハ為別紙送付ス			
(別添) 在奉天吉田總領事宛在新民府分館主任			
遠山副領事公信(大正十五年一月十六日) 其儘添附(ト)			
公 信 案			
外 務 省			

郭松齡等反奉
張作霖討伐軍
(甲 號 用 紙)

(已號用紙) 園納

大正十五年二月三日

外務省
木村 亞細亞局長

陸軍省
畑 軍務局長 殿

荒木ノ處置並監視兵撤退交渉方ノ件

御參考ノ爲別紙送付ス

外務省

(已號用紙) 園納

在奉天吉田總領事宛在新民屯分館主任遼山副領事公信實

(大正十五年一月十六日附)

荒木ノ處置並監視兵撤退交渉方ノ件

張學良ノ顧問荒木ハ戰後多クハ奉天又ハ錦州ニ在リテ時々當地ニ來ル由ナルモ其滞在期短カク從テ彼ノ言動ニ關スル詳細ハ不明ナルモ客月三十一日我警察官カ市中ノ警邏ヲ終リテ歸館ノ際當館敷地ノ境界線ニ於テ奉軍監視兵カ之ヲ阻止セントシタル事件アリ當時監視ノ任ニアル某連長ハ荒木カ發進等ヲナスハ問題ヲ惹起スルノ虞アルニ付絶對ニ之ヲ避ケサルヘカラサルモ多少領事館ノ出入者ヲ威嚇スル位ノコトハ差支ナカルヘシト口外シタル旨ヲ語リタリトノ時アリ又

外務省

(已 號用紙) 圓納

富館金井巡查カ過日用務出奉ノ際奉天ニ於テ荒木カ新民府分館ノ態度ハ非國民的的態度ナルコトヲ吹聴シ居ル噂ヲ聞込ミ歸リタル事實モアリテ右ハ假リニ轉レモ單ナル噂ノミトスルモ兎ニ角荒木カ富館ニ於テ殷一行ノ引渡ヲ拒絕シタルニ對シ面白カラサル事實ナリ又最近内探スル所ニ依レハ張學良・韓麟春ノ聯名ヲ以テ富縣知事ニ對シ兵士ト協力シテ殷一行ヲ看視スヘヤヲ命シタルモノノ如ク數日前ヨリハ巡警モ兵士ト共ニ張番ヲナシ居リ尙殷一行ノ者ヲ逮捕シタル場合ニハ三千元ノ賞金ヲ與フヘヤ旨ヲモ命令シ來レル趣ニシテ之等ノ種々ノ事實ト富館々員カ曩ニ吉林督軍張作相或ハ趙恩霖等ニ面會ノ際ノ右兩人ノ穩健ナル口振等ヨリ察シ又本日荒木カ電話局長ニ殷一行ハ非常ナル迷惑ヲ掛ケタル者ナルニ付是非共懲罰ノ必要アルモノナ

外 務 省

(已 號用紙) 圓納

ルコトヲ語リタルニ徴スルモ兎ニ角飽ク迄殷一行ノ自由解放ヲ阻止シ嚴重引渡ヲ要求セントスルハ張學良一派ノ所爲ナリト云フヲ得ヘク同時ニ張學良ハ未タ若輩ニシテ何等事理ヲ辨セス全ク荒木ノ爲ニ支配セララルモノニシテ張學良ノ言ハ即チ荒木ノ意思ナリトマテ支那人有識者間ニハ之ヲ評スルモノアリテ荒木ノ如キ人物カ張學良ノ顧問トシテ在ル事ハ今回ノ事件解決ニ一大障礙タルノミナラス實ニ帝國ノ對支關係ヲ不利ニ導クモノナリト思考セラルルニ付何トカ此際荒木ニ對シ適當ノ措置御考慮相煩度シ

次ニ張學良カ富館ニ保護中ノ殷一行ノ逃亡ヲ警戒スル爲メ客月二十五日以來富館ノ周圍ニ警戒兵ヲ配置セルコトハ勿論富館ニ於テ之ヲ認ムタル譯ニアラヌ又先方ト打合ハセタル結果ニモアラス當時荒木

一月一日松井少將
發陸軍次官宛電文
ト相違セリ

外 務 省

(已 號用紙) 園納

カ富館ニ於テ殷一行ノ逃亡セサルコトヲ保證セサル限リ富館附近ヲ警戒スヘキ口吻ヲ洩シタルニ對シ斷然之ヲ拒絕シ置ヤタルモサリトテ先方トシテモ具備打捨テ置ケサリシト見ヘ二十五日夕刻ヨリ富館附近ニ警戒兵ヲ配置シ居タルモ最初ノ内ハ頗ル遠慮勝ニテ外部トノ出入ニ對シ何等ノ拘束ヲ加フルカ如キ態度ナク單ニ警戒スルノ程度ナリシニ付富方ニ於テ外部トノ出入ニ障礙ナキ限リ支那ノ土地ニ支那兵ヲ配置スルハ已ムヲ得サル措置ト認ムルノ外ナシトノ見地ヨリ之ニ對シ強テ抗議モセス默過シ居タルモ三十一日警戒ノ任ニ當ル部隊交替ノ際ヨリ俄然其態度一變シ我領事館ヲ監視スルノ態度トナリ富館ト外部トノ交通ニ對シ全然之ニ拘束ヲ加フルノ舉ニ出テタルヲ以テ當時直チニ貴館ニ電話ヲ以テ交渉方御依頼スルト共ニ富館ニ於

外務省

テモ中田書記生ヲ韓麟春ノ許ニ遣ハシ嚴重抗議セシメタル處兎モ角先方ノ申分ニハ戒嚴中ナルヲ以テ若シ過失アリテハ申譯ナキニ付市中一般日本人ニハ日人ト記シタル白布ヲ又使用支那人ニハ日人使用人ナル旨ヲ記シタル腕章ヲ付セラレタクサスレハ決シテ出入ヲ拘束セサル旨申出テタルニ付之ヲ入レ右方法ヲ實行シ其後サシタル故障モナカリシカ又々本月十一日監視兵交替シ當日ハ全然拘子定規ニ腕章アルモノノ外一切外部ヨリノ臨時用務ノ爲富館ニ出入セントスル支那人全部ノ交通ヲ拘束シ甚ダシキニ至リテハ富館ニ郵便物ヲ配達セントスル郵便夫及電報配達人(以上兩者共制服ヲ着シ居ルニ拘ラス)ノ出入ヲ拘束スル等ノ事アリ依テ直ニ中田書記生ヲ留守司令周濂ノ許ニ遣ハシ嚴重抗議シ漸ク其ノ態度ヲ改ムルニ至リタルモ何分

外務省

(已 號 用 紙) 國 納

前記ノ如ク當館附近ニ監視兵アル爲當館ト外部トノ交通何トナク不
自由ニシテ如此キ状態ニテハ今後何時又問題ヲ惹起スルヤモ計ラレ
ス其都度館員ヲ派シテ交渉セシムルコトハ到底其ノ煩^{大煩}ニ堪ヘザルノ
ミナラス公務上支障尠カラサルハ勿論我々トシテモ精神上實ニ不快
ニシテ恰モ敵軍ノ包圍中ニアルカノ如キ感アリ殊ニ如此我領事館ヲ
支那兵カ監視スルノ態度ハ一般支那人ニ對シ領事館ノ體面上又帝國
ノ威信ニモ關スルコト多大ナリト思惟セラレ誠ニ遺憾ニ堪ヘサルニ
付此際奉天側ニ嚴重抗議セラレ當館附近ニアル監視兵ノ撤退方御交
渉相煩度

外 務 省

機密

6

外務省文書
第1487
15.1.25

附屬書類添付
機密第13

亜細亞局

第13号

別紙添付

大正十五年一月十八日

綴込名

陸軍少佐

在新民府

副領事 遠山 俊

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

大正十五年一月十六日附
機密公領第一號 在奉天吉田総領事宛
信 寫 送 附

件 名

荒木、慶置並監視兵撤退
交渉方、件

前市、文書、件

在奉天總領事館新民府分館

寫

大正十五年一月十六日

在新民府

副領事 遠山 峻

在奉天

總領事 吉田 茂殿

荒木、慶置並ニ監視兵撤退

交渉方、件

張學良、顧問荒木、戦後及クハ奉天
又ハ錦州ニ在リテ時々當地ニ来ル由ナル
モ其滞在期短カク從テ彼ノ言動ニ關スル

在奉天總領事館新民府分館

詳細ハ不明ナルモ客月三十一日我
府カ市中ノ警邏ヲ終リテ
際當館敷地ノ境界線ニ於テ奉軍監
視兵ガ之ヲ阻止セシタル事件アリ當
時監視ノ任ニアル某連長ハ荒木カ發砲
等ヲナスハ問題ヲ惹起スルノ虞アルニ付
對ニ之ヲ諒ケサルヘカラサルモ多少領事館
出入者ヲ威嚇スル位ノコトハ差支ナカ
ト口外シタル旨ヲ語リタリト、噂アリ又
當館金升出査カ過日用務生奉
際奉天ニ於テ荒木カ新民府分館
態度ハ非國民的態度ナルコトヲ吹聴シ
居ル噂ヲ聞イニ歸リタル事實モアリ

コ
ロ
ニ
シ
テ
ハ
カ
ル
コ
ト
ハ

テ右ハ倣リニ何レモ早ナル事ノミトスルモ
鬼ニ角荒木カ當館ニ於テ倣一行ニ列
渡ラ拒絶シタルニ對シ面白カラザル感情
ヲ持シ居ルハ疑フヘカラサル事實ニシテ現
ニ今十六日幾跡見學トシテ連山方面ニ
赴キタル歸途當地ニ立寄りタル多謀
本部畑砲兵大佐廣東軍高村騎兵
中佐ノ一行ヲ荒木カ案内彼トシテ我
電話局ニ連行シ郭軍ノ當地占領及
退却ノ状況並ニ奉軍飛行機ノ爆彈
投下状況其他當時ノ状況ヲ聴取シテ
其後歸奉ニ目ト果ノ向ニアル當館ニ
ハ立寄り難サリシカ如キハ見當違ヒモ甚
タシク右ハ的切ノ荒木ノ差カネト推測
セラル真ニ奇怪ノ萬ノ現象ニシテ何
等カ荒木カ我領事館ニ含ム所アルモノ
ト思料セラル

又最近内探スル所ニ依レハ張學良將
軍春ノ聯名ヲ以テ當館知事ニ對シ
テ命シタルモノ、如ク數日前ヲハハ
モ兵士ト共ニ張番ヲナシ居リ尚倣一行
ノ者ヲ逮捕シタル場合ハ三千元ノ賞
金ヲ與フヘキ旨ヲモ命令シ来レル趣ニ
テ之等ノ種々ノ事實ト當館々負
カ最ニ吉林督軍張作相或ハ趙恩霖

在奉天總領事館新民府分館

松井、幸明
ト柳達ス

等、面會ノ際、右西人、穩健ナル口振
等、又本、荒木カ電話局長
ニ、一行ハ非常ナル迷惑ヲ被ルベシ
者ナルニ付、是非共懲罰ノ必要アルモ
ナルコトヲ語、タルニ徴スルモ、鬼ニ角龍
ク追、殷一行ノ自由解放ヲ阻止シ、
重引渡ヲ要求セトスルハ、張學良一派
ノ所為ナリト云フヲ得ヘシ、同時ニ張學
良ハ未タ若輩ニシテ何等事理ヲ辨
セス、全ク荒木ノ爲ニ支配セラル、モ、ニシテ
張學良ノ言ハ即ケ荒木ノ意思ナリト
マテ、丈那人有識者同ニハ之ヲ評スルモ、
アリテ荒木ノ如キ人物カ張學良ノ顧問
トシテ在ル事ハ今回ノ事件解決ニ大
障阻タルミナラス、實ニ帝國ノ對大関係
ヲ不利ニ導クモノナリト思考セラル、ニ付何
ントカ此際荒木ニ對シ適當ノ措置ヲ
考慮相煩度シ
次ニ張學良カ當館ニ保護中ノ殷一行
ノ逃亡ヲ警戒セシメ、爲メ、客月二十五日以
來、當館ノ周圍ニ警戒兵ヲ配置セル
コトハ、先論、當館ニ於テ之ヲ認メタル
ニ付、又先方ト打合ハセタル結果、モ
アラス、當時荒木カ當館ニ於テ殷一
行ノ逃亡セサルコトヲ保証セサル限り、當
館附近ヲ警戒スヘキ口吻ヲ演シタルニ

在奉天總領事館新民府分館

對之斷然之ヲ拒絕シ置キタルモサリ
テ先方トシテモ其儘打捨テ置キリ
ト見ヘ二十五日夕刻ヨリ當館附近ニ警
戒兵ヲ配置シ居タルモ最初ノ内ハ猶
遠慮勝テ外部ト出入ニ對シ何等
ノ拘束ヲ加フルカ如キ態度ナク單
警戒兵ノ程度ナリニ付當方ニ於テ
外部ト出入ニ障礙ナキ限リ支那ノ土地
ニ支那兵ヲ配置スルハ已ムヲ得サル措置
ト認ムルノ外ナシト見地ヨリ之ニ對シ強
テ抗議モスル過シ居タルモ三十一日警
戒ノ任ニ當ル部隊交替ノ際ヨリ俄
其態度一變シ我領事館ヲ監視ス
ノ態度トナリ當館ト外部ト交通ニ
對シ全然之ニ拘束ヲ加フルノ舉ニ出
テタルヲ以テ當時直々ニ貴館ニ電
ヲ以テ交渉方御依頼スルト共ニ當館ニ
於テモ中田書記生ヲ韓韓春ノ許
ニ遣ハシ嚴重抗議セシメタル虞鬼ニ
角先方ノ申分ニハ或嚴中ナルヲ
以テ若シ過失アリテハ中譯ナキニ付
市中一般日本人ハ日人ト記シ
タル白布ヲ又使用支那人ハ日人
使用人ト記シタル腰章ヲ附
セシ度サスレハ決レテ出入ヲ拘束セ
ル旨申出タルニ付之ヲ容レ右方法

在奉天總領事館新民府分館

ヲ實行シ其後差シタル故障モナカリ
シカ又々本月十日監視兵交替シ當
日ハ全然拘子定規ニ職章アリモノ外
一切外部より臨時用務ノ爲當館
ニ出入セシトスル支那人全部ノ交通ヲ
拘束シ甚シキニ至リテハ當館ニ郵便
物ヲ配達セシトスル郵便夫及電報配達
人(以上兩者共制服ヲ著シ居ルニ拘ス)ノ出入
ヲ拘束スル等ノコトアリ依テ直々中
田書記生ヲ留守司令周濂ノ許ニ遣
ハシ嚴重抗議シ漸々其ノ態度ヲ
改ムルニ至ラズ何分前記ノ如ク當館
附近ニ監視兵アル爲當館ト外部
トノ交通何トナク不自由ニシテ如此キ
状態ニテハ今後何時又問題ヲ惹起ス
ルヤモ計ラレス其都度館員ヲ派シテ
交渉セシムトハ到底其ノ煩ニ堪ヘサル
ニナラス公務上文障甚カラサルハ勿論
勿論我々トシテモ精神上實ニ不快ニ
シテ恰モ敵軍ノ包圍中ニアルカノ如
キ威嚇アリ殊ニ如此我々領事館ヲ支
那兵カ監視スルノ態度ハ一般支那人
ニ對シ領事館ノ体面上又帝國ノ
威信ニモ害ムルコト多大ナリト思惟
セラルニ誠ニ遺憾ニ堪ヘサルニ付此
奉天側ニ嚴重抗議セリ當館

在奉天總領事館新民府分館

附近ニアル監視兵ノ撤退方御交
渉相煩度
右御依頼申進ス

本信寫送附先
外務大臣
在丈公使

在奉天總領事館新民府分館

居心閣上王民軍が山海関方面に非
シ動カハ攻勢ヲ取ラントスル現状ニ
テハ、彼等ノ感情ヲ融和シ難
キ状況ニアリ本件引續キ極力協力中
ナルモ右為念、

寫送先

16
1
1

會文人情條通歐
計書事報約商米

官 臣

官 傷

電信課長 聯

商

499
暗 40

奉天為

本為

十六日後一二
十五年二月十六日後六、日

件名及在
綴込名 海外事務

亞

郭軍外務大臣

吉田總領事

第六一號 (十六日前)
本官若王丈公使宛電報第二三號 (十六日前)
貴電第六號ニ関シ
段汝耕等放出方ニ関シ当地奉軍總
司令部、於テハ格別ノ異議ナシモ戰
線ニアル張學良等郭松齡ノ謀反ニ
際シ段、齊、郭、追從シテ出動セ
ルハ郭ト同罪ナリト見做スベシトナシ

第 電
大 正

電
信
案

外
務
省

圖

穀地耕以下保護等既定、方針は付

子ハ穠子希配意相外所ハ知蘇後既

在支公飲虎泉宛電報第百號

宛在亭
書

在亭元
老白端領事

件
飯地耕以下釋放市面之作

名込綴
端外

發
幣
東
方
之
常
規
也

主管
亞細亞
局

任主

建
草
大
正
十
九
年
三
月
廿
四
日

電信課長

1

(原議用紙甲) 圓網



(原議用紙乙) 圖納

二 相方ノ月ノ経過シタル始メトナリ

新及化方就也也
孝王所分規之

監視の管ふり持てぬ等、釋放し

効害シ所レハ「舊」ニ
終ルノ面目上

白白うさへんそ さん 客中 貴電 芳

六子張作霖、新舊三子

[illegible]

電
信
案

外
務
省

[illegible]

外務省

電信課長藤井

臣

傷

亞細亞

歐通條人情文會
米商約報事書計

門
類
引
號
16
1

寫送先

件名及在在の経緯
綴込名 市外 市外 市外

奉天 二十日午後二時
本府 二十日午後六時

吉田海兵衛

第六二號 (十九日午後)
貴電第三〇號 (同日午後)
之迄テモ機入需アハ毎々張作霖トハ散
等ノ為ニ寛ヲ集ニ釋放方再ニ懇談ヲ
試ミ百方手ヲ盡シ来リ楊宇霆ハ本官邸
菊池松井兩氏時ニリモ豫テ申入ノ次
第アリタルモ本官邸在支分使先電報
第二三號ノ如キ事情ノ下ニ奉天側ハ

容易、之ハ解放ヲ肯セ又新民屯
分館ニ於テ監視的態度、周シテモ
嚴重抗議申込居ルモ監視兵ハ尚
ホ分館周囲ニ配置セシ萬一殷等ヲ
逃走セシムルハ於テハ銃殺ノ虞スベキ旨
嚴命セラル始末、レテ到底近ク解
放ノ氣配ナキモ即訓令、就中早速
松井少将ヲ通シ楊宇霆ニ再應懇談
ヲ試ミタルモ彼ノ返答ハ前同様ニテ
新民屯駐在ノ軍隊ヲ漸次他ニ移動
セシメ代フルニハ警ヲ以テ其ノ監視ノ
緩クシテ候テ解放方取計ノハント云

ヒテ要領ヲ得ず張作霖ハ齒痛ニテ就
褥中而三日中而會ノ機會、申入ルハ
キモ現ニ國民軍ト對陣中戰争ハ
理ヲ脱セサル張學良一派ハ段汝耕
強ニ齊世英ハ漢州郭軍司令部ニ
テリテ學良ノ代表ニ惡罵ヲ加ヘタル事
今尚ホ之ヲ令ミ居ンヲ以テ此ノ上奉天
局ト交渉ヲ重ヌルモ到底要領ヲ得
難ハサルノミナラズ徒ニ我威嚴ヲ害
フノ結果ニ終ルベリ然レトモ是レ即時
其ノ解放ヲ強行セントモ我陸軍戰跡
視察等ノ場合ハ分館ニ立寄ラシメ

視察員中、彼等ヲ混入セシメテ放出
スルカ然ラズンハ徐ニ時期ノ到来ヲ待
ツノ外致方ナリ先年北京ノ我兵營ニ逃
奔シ居リタル段派政客ノ实例モアリ
現状ハ顧レハ暫ク時期ノ到ルヲ待ツ
方無レハキカト思考ス
北京ハ轉電セリ

少村信之 書

十三年三月

第二

相破

先日は由緒國と云知事北多飯店先一書着る
由緒子加成りや中り封入の置り、黄王二氏先の封
書二通り改に因り、等々由緒を水かや、今由緒を
わたり

SHIRAUME

no. 1.

前段にわたり通り、戦争の向り、主要な用務は
内山類子の代り、日本政府の増兵の其様の説は

no. 2

由緒、不計交通杜絶の方途に歸るを、今日の如
きと相成り、日本の永久の協同を、得るべき、其志遂
行の一部、此は、之が為、如何なる境遇に陥るも、え
本由緒、其の等、厭ふ、此は、水か、一方には、南従合
議、平他、今、は、西國、向、路、通、す、き、件、数、あ、る、殊、に
其、那、の、時、分、間、通、す、し、日、本、の、方、針、の、言、様、如
の、に、依、り、今、は、西、國、の、結、合、に、大、き、影、響、を、受、け、
其、の、言、は、ば、如何、も、心、残、り、す、し、斯、く、永、く、西、國、の、身、
の、待、出、ら、る、や、金、然、る、者、つ、す、宜、二、思、ふ、堪、り

SHIRAUME

no. 3

各地を巡る以来既に二月過ぎ生民状態は戦時
 状態に較ぶれば稍々改善されり大抵の者として狭き
 室内に起居し（七人の者ハ四畳の一室内に寝起し）
 短形宙から幸抱も出るも斯く形向には窮乏
 屈辱且又何か勉強する一日を過ごすと思ふもゴタゴタ
 予も落つがず何と出まじか其の先景は丁度日本が
 汽船の置き場と成りたるニ寄るソウリに御座んかを事は
 丁度その中より着陸形船のあき長き船海に沈みこ
 屏風ののりか止違ふ所は航海中の風波あき代はるに

SHIRAUME

no. 4

塵埃だらけに御座り
 各地は内戦の如く片田舎より當館は低き土垣を
 繞られ其の周圍に例の夕晴晝夜とある立ち守り
 時々垣より館内の庭を覗く様も御座る平如
 き身は碌に庭にも出られず此頃には衣服を着
 せぬ方館の館の存館の方に運動に出掛けし次第に
 最初は憂兵共は喧言を為し居り此頃は憂兵共は
 揃へて夜間は林におりて水々の計劃を相立て居
 様子なり

SHIRAUME

no. 7

知れずと有り、南は東より、外務省局には直接
吉田氏を訪問して、面会等のありきと要すが、
何か暗中脱獄の方法も請うて、一に逃に極め、
篤と市相談の上、物方早度、南一面も必ずしと
一度に出る必要あり、各人別々方法あり、日まかりて
陸續として出るも可なり、
外務省局始め、総て絶えず、
釋放につき、あるべき、斯く申上るは、決して
徒らに不満の統制、
SHIRAUME

no. 8

に依れば、斯く相合に向て、義理あり、
本も縁、
よけすれば、
かとう、
SHIRAUME

no. 9

致す。其後、宛先も細くは高は便利。
物等。

Koji Shome
c/o Japanese consulate
At Kaimingfu Mukden

水野駒井諸兄には別紙に洋一と名紙を添付す。
何卒用件を承知し、
今末軍用物資に宜しくお供えを。
輝子ちゃんにさうさう。

父

SHIRAME

年車多有り下在郡
調布村不足の木三三
十村後三郎様

古新奉天有新民
日本館
井上耕二
十五三二

10

外務省文書課
受領 2 號
10. 4 27

次官
楊

機密

機密第六十一號

亞細亞

第一課甲

大正十五年四月廿日

在新民府

副領事 遠山 峻

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

楊家蔭脱出ニ関シ報告ノ件

當館保護中ノ殷汝耕一行警戒
ノ為奉天軍側ニ於テ當館附近
ニ監視兵ヲ配置シ居ル事ハ既ニ
御承知ノ通りニシテ其後奉軍
ノ漸次進出ト共ニ漸次後方
ニ退却シ居タルハ僅ニ輜
重兵ノ一個連ニ過キサリシカ
遂ニ本月十日ニハ右一個連ノ兵モ全部
西部前線ニ向ヒ出發シ其ノ後ノ警戒
戒ハ專ラ當新民縣保甲隊ヲ
之ニ當リ居タル處去ル十四日
拂曉一行中ノ楊家蔭(字子厚)ハ突
然姿ヲ晦マシ何レハカ脱走シ
ルモ當時當館員ハ勿論一行中ハ
モノスラ全然之ニ氣付カサリシ
模様ナリ就テハ當館ニ於テモ直ニ
察管ヲシテ楊ノ消息ニ関シ内密

在奉天總領事館新民府分館

探査セシメタル處官憲ニ逮捕セラレ
タル形跡ナク行衛不明ノ姿ナリ
シカハ差當リ外部ヘノ漏洩ヲ慮
リ嚴重當館使用支那人ノ口ヲ
緘シ右ノ次第ヲ奉天總領事迄
ニハ通報シ置キタルモ本省ハ
何等ノ其ノ消息ニ付確報ヲ得タ
ル後報告可致注意シ居タル處
昨十九日大連ヨリ楊カ小官宛
寄セ来レル書信ニ依レハ彼ハ當
館ニ遁入後百數十日ヲ經過シ多
大ノ厚情ヲ受ケタルモ此上奉天總
領事交渉ノ結果ニ依リ自由釋放
ノ期ヲ俟ソコトハ事業ノ虞係上之ヲ
許サバレルモノアリテ遂ニ計畫ノ漏洩
ヲ恐レ無斷脱出ヲ決意シタルモノ
如ク本月十四日監視保甲隊ノ隙
ヲ窺ヒテ密カニ當館ヲ脱出シ徒歩
ニテ巨流河驛(當驛東方次驛)ニ至
リ晝間ハ附近ノ森林ノ中ニ潜伏シ
夜陰ニ乘リテ巨流河ノ鐵橋ヲ渡リ
鐵道線路ニ沿ッテ十五日午前九
時頃奉天附近ニ着シ直今ニ奉天
ヨリ瀋陽車ニテ十六日大連ニ到着シ
タル趣ナルカ直今ニ乘船上海ニ向
フ豫定ナリト云フ

在奉天總領事館新民府分館

尚支那側ニ於テハ未タ此ノ事實ヲ探
知シ居ラサルモノ、如ク見受ケラル
右報告申進ス

本信寫送附先

在奉天總領事

在奉天總領事館新民府分館

寫送先

會文人情條通歐
計書事報約商米

電信課長

17

信

商

✓

4.38

暗 19

奉天發
本省著

大正十五年四月廿二日

後、四、五
八、一

綴込名

件名

重

幣原外務大臣

吉田總領事

第一四〇號（廿二日後）

四月廿二日附遠山主任發閣下宛機密公

第六一號場（秘）脱出、件ハ当館、支那

側ニ對スル立場ニ有リ、当分、間極秘トシテ傳

取計ヲ請フ。

新民府ニ暗送セリ。

外務省文書課
受第 436
15. 5. 9

附屬書類添付

亞細亞

機密公第四二六號

大正十五年六月三日

在 奉 天

總領事 吉 田

茂

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

荒木顧問ニ對スル問答書進達ノ件

奉郭戰當時郭軍文官殷汝耕等數名カ新民府領事分館ニ避難セシ際奉
天側軍事顧問荒木五郎ノ採リタル手段方法ニ關シ當館坂内書記生ヲ
シテ取調ヲ爲サシメタル顛末別紙問答書寫ノ通りニ付御參考迄報告
申進ス

本信寫送付先

新民府分館

在奉天日本總領事館

12

436
15. 5. 8

東京府知事
報告書
昭和十一年
九月

機密公第四二六號

亞細亞
第一課甲部

天
領事
吉
田
茂

答書進達ノ件
數名カ新民府領事分館ニ避難セシ際奉
タル手段方法ニ關シ當館坂内書記生ヲ
シテ取調ヲ爲サシメタル顛末別紙問答書寫ノ通りニ付御參考迄報告
申進ス
本信寫送付先
新民府分館

在奉天日本總領事館

署名
吉田茂

問 答 書

張郭戦争當時殷汝耕等一行カ新民屯領事館分館ニ避難セシ際荒木五郎氏ノ採リタル手段方法態度ニ關シ當館ノ通知ニヨリ出頭シタル同氏ト書記生坂内彌代記トハ左ノ問答ヲ爲シタリ

問 大正十四年十二月三十一日新民府分館警察官カ市中ノ警邏ヲ終リテ歸館ノ際奉天監視兵之ヲ阻止セシ折柄監視ノ任ニアリタル某連長カ語リタル處ニヨレハ荒木ハ發砲等ヲ爲スハ問題ヲ惹起スルノ虞アルニ付絶對ニ之ヲ避ケサルヘカラサルモ多少領事館ノ出入者ヲ威嚇スル位ノコトハ差支ナシト指圖シタリトノコトナルカ其真相如何

在奉天日本總領事館

答 事實相違セリ當時ノ狀況ヲ物語リテ其真相ヲ明カニスヘシ

自分カ張學良ト共ニ新民府ナル張學良ノ司令部ニ入リタルハ昨年十二月二十五日ニシテ當時領事分館内ニハ殷汝耕齊世英外七八名ノ者カ避難シ居ルトノコトニシテ張學良ハ領事分館ニ對シ之レカ引渡ヲ要求スルコトトナリ當時司令部内ノ空氣ハ如何ナル方法ヲ以テシテモ之等内亂ヲ惹起シタル元凶等ヲ逮捕セサレハ已マサルノ風見ヘ張學良ハ自分ニ對シ領事分館ニ赴キ夫等ノ人々ノ引渡ヲ要求シ吳ルル様申セシニヨリ自分ハ之ヲ拒絕シ拒絶ノ理由トシテ日本領事分館内ニ竄入シタル者共ノ引渡ヲ求ムル爲メ談判ヲスルハ顧問タル吾々ノ爲スヘキ筋合ノモノニアラ

在奉天日本總領事館

ス且ツ左様ノコトヲ爲シテハ後日問題ヲ惹起スルノ虞アリ何人
カ貴下ノ部下ヲ使者トシテ分館主任ニ談判セシメラルル方可然
但シ自分ハ貴下ノ派遣セラルル使者ニ附添ヒテ行クコトハ否シ
カラスト答ヘタルニ張學良ハ頗ル鼻息荒ク是非之等元凶ノ引渡
ヲ要求セサルヘカラス若シ貴下（荒木）ニシテ使者タルコトヲ
肯セサレハ部下ノ武官ヲシテ高壓的ニ引渡ヲ要求セシムヘシト
ノコトニシテ仲々自分ノ忠言ヲ容ルヘクモ見ヘス其際ノ狀況ハ
儀俄少佐モ傍ラニ在リテ能ク其ノ模様ヲ見聞シ居リタルコトナ
リ

在奉天日本總領事館

果チ招來スルノ虞アリ已ムヲ得ス自分ハ張學良ノ使者トシテ分
館主任ニ面談スヘキコトヲ應諾シタリ最モ其際自分ハ貴下ノ依
賴ニヨリ分館ニ赴キ主任ト面談ハ爲スヘキモ其ノ結果ハ到底分
館主任ニ於テ當方ノ申出ヲ應諾シ引渡ヲ爲スヘシトモ思ハレス
必スヤ無効ニ終ルヘク其際ハ貴下ノ考ニヨリ此處ニ於テ武力ヲ
以テ奪回セラルルカ如キコトハ萬々慎マサルヘカラサルコトニ
シテ且ツ貴下將來ノ爲メニモ必ス惡因ヲ遺スモノナレハ自分カ
分館ニ赴キテ豫期ノ通り目的ヲ果シ得サルトキハ事件ヲ奉天ニ
移シ涉外ノ手段ニヨリ正當ニ引渡ヲ受クル他ニ途ナキコトヲ繰
返シ置キタリ然レトモ當時ノ張學良ハ昨今ノ張學良トハ殆ント

在奉天日本總領事館

別人ナルカ如キ氣鋭ヲ表ハシ自分ノ使スルニ方リーケ中隊ノ部下ヲ引卒シ行クヘシト申出テ如何自分カ其不必要ト不可ヲ説クモ聞入レサルニヨリ言フカ儘之レヲ引卒シタルモ領事分館ニ至ラサル前一民屋ニ全部ヲ收容シ且ツ引卒將校ニ對シ自分ノ後命ナキ限リ屋外ニ一步モ踏出スヘカラサルコトヲ嚴命シ自分一人ニテ分館ニ至リ遠山主任ト面會シ引渡ヲ要求シタル次第ナリ自分カ分館ニ至リタル際ハ既ニ林中佐分館ヲ辭去ノ後ナリシカ自分ハ同館應接室ニ於テ遠山氏外館員全部ト面會シ其席上ニ於テ先ツ兵亂ノ爲メ邦人在留民ノ被害ヲ伺ヒ若シ兵亂ノ爲メニ在留民ニ於テ損害ヲ蒙リタルモノアリトセハ第一ニ之ヲ補償セシ

在奉天日本總領事館

ムヘキ手段ヲ講スヘキニ付御調査ヲ願タキコト及糧食等モ缺乏シ居ラハ出來得ル丈ケノ便宜ヲ計ルヘキ旨ヲ申出テ置キ最後ニ自分ノ來意ヲ告ケタリ來意トシテ前陳張學良ト自分トノ談話ノ概況ヲ話シ左様ノ次第ニテ自分ハ張學良ノ爲メニ正式ニ使スヘキ立場ニアラサルコト勿論ナレトモ若シ自分カ之ヲ引受ケサレハ張學良ハ如何ナル手段ヲ採ルニ至ルヤモ計リ難ク必スヤ領事館ヲ包圍シ威嚇スル等ノコトヲ爲スニ相違ナキモノト思料セラ

ルルヲ以テ不本意ナカラ之ヲ引受ケ來リタルモノニシテ支那側ニ於テハ殷汝耕其他ノ者ヲ以テ奉郭戰ノ導火ヲ爲シタル元兇ナリトシ決シテ之ヲ政治犯ナリトハ解釋シ居ラス故ニ御引渡ヲ得

在奉天日本總領事館

ルトセハ至極結構ナルモ自分トシテモ日本側ニ於テ容易ニ引渡サルヘキモノト思料シ居ラス茲ニ於テ自分ハ一面張學良ノ使者タルト共ニ一面顧問トシテ兩者ノ間ノ折合ヲ計ラント考ヘ來リタル次第ナルカ若シ正當御引渡困難ナリトセハ方法ヲ設ケ夫等ノ人員ヲ逃走セシムル様御取計ヲ願度ク左スレハ新民府ニ於テハ之ヲ逮捕セス相當距離ヲ隔テタル土地ニ於テ之ヲ逮捕シ貴官ニ御迷惑ヲカケサル様取計フヘシト申述ヘタルニ遠山氏モ自分ノ往訪ヲ喜ハレタルモ之レヲ引渡シ又ハ逮捕セシムル爲メ欺キテ逃走セシムルカ如キハ人情上忍ビ得ストノ答ナリシヲ以テ然ラハ貴官ヨリ奉天ニ連絡シ奉天總領事ノ態度ヲ決定シ可否共ニ

在奉天日本總領事館

奉天總司令部ニ御回答ヲ願フコトニ致度キ旨ヲ申入レタルニ遠山氏モ此ノ說ニ同意セラレシモ恰モ日本電話不通ナリシ爲メ夫レナラハ自分ニ於テ貴官ノ爲メニ特別ニ列車ノ準備ヲ爲スヘキニ付キ奉天ニ赴キ總領事ト御相談ヲ願度ク且ツ支那側トシテハ明日監視兵ヲ出シ日本電話線ノ修繕ニモ援助ヲ與フヘク夫レ迄ハ奉天總司令部ヨリ新民府司令部ニ通スル直通電話ヲ利用シ貴官出奉後ノ決定事項ヲ通知セラレタシト約シ二十五日ノ夜遠山氏ノ爲メ特別列車ヲ發車シ二十六日二十七日ノ兩日モ一タアカアヲ出シテ日本電話線修繕ノ援助ヲ爲シタリ而シテ遠山氏出奉ノ上奉天總領事ノ指揮ヲ受ケ居ル留守中殷汝耕其他ノ人々ノ逃

在奉天日本總領事館

走スル様ノコトアリテハ非常ニ困ルコト故其ノ逃走ヲ防ク爲メ
ニハ周圍ニ兵ヲ配置シテ之ヲ監視セシムルノ必要アリ然レトモ
夫レカ爲メ配置スル兵士ノ人員多數ニシテ濃密ナレハ自然領事
館ヲ包圍シタリトノ問題ヲ惹起スヘキニヨリ遠山氏出奉解決ニ
至ル迄夫等ノ人々ヲ領事館ニ於テ監視シ逃走ヲ爲サシメサル旨
ノ保證狀ヲ得タル上周圍ノ監視兵ヲ配置セサルコトト致度旨ヲ
申入レタルニ遠山氏自身ハ之レニ同意セラレ保證狀ヲ差出スモ
可ナリトノ意見ヲシク見受ケラレタルモ館員及警察官中ヨリ未
タ銃聲ヲ聞キツツアル際多數在留民ノ保護モアリ其上股汝耕等
ノ逃走ヲ絶對ニ責任ヲ以テ防キ得ルヤ否ヤ疑ナキ能ハス從ツテ

在奉天日本總領事館

保證狀ヲ差出スコトハ不可ナリトノ說出テ結局保證狀ヲ貰ヒ得
サルコトトナリタルヲ以テ然ラハ支那側トシテハ當然外部ヨリ
之ヲ監視シテ逃走ヲ防カサルヘカサル處支那側ノ爲スカ儘ニ任
スル時ハ如何ナル方法ヲ取ルヤモ知レス寧ロ自分ニ於テ相當ノ
處置ヲ爲ス方可然ト思料スルニヨリ最少限度ノ兵ヲシテ監視セ
シムルコトト爲スヘキモ之レカ爲メニ領事館ヲ包圍シタリトノ
問題ヲ避クル爲メ未タ全ク兵變納マラサル新民府ニ在リテハ領
事館ノ危險ヲ防ク爲メ支那側ヨリ領事館保護ノ爲メ領事館區域
外ニ兵ヲ配置スルト言フ名義ニテ之ヲ實行スヘシト言ヒタルニ
遠山氏初メ一同非常ニ之レヲ喜ハレ是非左様ナスコトニ願度シ

在奉天日本總領事館

トノコトナリシニヨリ自分ハ其實行ニ付領事館區域内ニ立入ル様
ナコトアリテハ不本意ニ付配置上ノ參考トシテ區域ヲ實査シタク
案内ヲ乞ヒ度シト申入レタルニ一巡査ハ丁寧ニ領事館及ヒ其ノ區
域ノ略圖ヲ認メテ自分ニ與ヘ且ツ其ノ周圍ヲ案内シ吳レタルニヨ
リ自分ハ夫レニヨリテ兵ヲ配置シタルモノニシテ其際巡査ノ與ヘ
タル略圖現ニ小生ニ於テ保存シアリ事情前述ノ通ニシテ總テ領事
館員ト相談ヲ遂ケ互ニ意見ヲ交換シタル上配兵ヲ爲シタル次第ニ
シテ從ツテ今御尋ネノ如キ命令ヲ自分カ監視兵ニ對シ發シタリト
言フコトハ絶^付ニナシ

問 新民府金井巡查カ當時出奉ノ際奉天ニ於テ貴下（荒木）ハ新民

在奉天日本總領事館

府分館ハ非國民的ノ態度ヲ取り居レリトノコトヲ吹聴シタル事
實ヲ聞込ミタリト言ヒ居レリ果シテ左様ノ吹聴ヲセラレシモノ
ナルカ

答 自分ヨリ新民府分館員ヲ非國民的態度ナリ云々等ノ話ヲ何人
ニ對シテモ爲シタル事實ナシ恐ラク何カト間違ナラン只然シ自
分カ新民府分館ノ周圍ニ兵ヲ配置シタルハ前キニモ述ヘシカ如
ク遠山氏ト諒解相談ノ上ニテ爲シタルコトナルニ不拘遠山氏ハ
奉天總領事ニ對シ荒木ハ兵力ヲ以テ分館ヲ包圍シ非國民的ノ行
爲ヲ爲シタリトノ報告ヲセラレシト聞キ却テ自分ハ遠山氏ノ仕
打ヲ不審ニ思ヒ居リタル位ナリ

在奉天日本總領事館

問 畑大佐カ新民府ヲ視察セラレシ際貴下ハ同大佐ヲ電話局ニ案内シ其ノ際局長ニ殷汝耕其他ヲ必罰ノ要アリト説カレタル趣キ左様ナル事實アリシヤ

答 畑大佐カ新民府ニ來ラレシハ戰跡見學ト言フコトニテ新民府滞在ハ約一時間ト言フ短時間内ニ於テ新民府及其附近ニ於ケル戰況及爆彈ノ威力等ヲモ調査シタシトノコトナリシヨリ領事分館ニ案内センカトモ考ヘタリシモ分館内ニ於テハ夫等視察ノ目的ヲ果シ得ス寧ロ電話局ノ二階ヨリ展望スルトキハ説明其他ニ非常ニ便利ナルノミナラス爆彈ノ降下シタル場所等モ眼下ニ之ヲ見聞スルヲ得且ツ當時ノ戰役ニ付テハ電話局長ハ何人ヨリモ

在奉天日本總領事館

一番詳シク見聞セラレタル一人ナルヲ以テ同所ヲ最モ適當ト思料シ同局ニ畑大佐ヲ案内シタルモノニシテ分館ニ案内セザリシハ時間ノ都合ニヨルモノナリ又其際局長ニ對シ殷汝耕其他處罰云々ノコトハ自分箇人ノ意見トシテ奉郭戰ノ元兇ナレハ處罰ノ必要アリト話シタルコトアリシ様ニ記憶スルモ夫レハ自分ノ考ヲ個人トシテ述ヘタル迄ナリ然レトモ日本領事館ニ避難セシモノヲ日本トシテ引渡シ得サルモノナルコトハ自分モ充分之ヲ諒解シ得ルヲ以テ畑大佐ト共ニ錦州ニ至リタル際張學良ニ對シ殷汝耕等主ナルモノ一二人ハ兎モ角大勢ヲ其儘監視シ居ルハ日本領事館トシテモ困難ノコトナルヘケレハ其人數ヲ局限シ不必

在奉天日本總領事館

要ノモノハ釋放セシメテハ如何ト建言シ張學良モ略同意シタル
模様ナリシモ遂ニ實行ヲ見ルニ至ラス其後北京ニ於テモ自分ハ
殷汝耕等ノ助命釋放ヲ運動シツツアル次第ナリ

問 新民府分館ヲ包圍シタルハ貴下ヨリ張學良ニ建言セラレタリ
トノコトナルカ事實相違シ居レリヤ

答 夫レハ相違シ居レリ前ニ陳ヘタル通りノ事情ナリ寧ロ張學良
ノ採ラントスル高壓手段ヲ自分トシテハ出來得ル丈ケ緩和シタ
ルモノニシテ其邊ノ事情前ニ申述ヘタル通りナリ從テ自分カ遠
山氏ニ對シ殷一行ノ引渡ヲ爲ササレハ兵力ヲ用ユヘシナト威
嚇シタルコトモナク此點亦前ニ述ヘタル處ニヨリ諒察アリタシ

在奉天日本總領事館

問 遠山氏ヨリ分館周圍ノ撤兵方ヲ要求セシコトアリヤ

答 ナシ兵ヲ配置セシハ前キニモ述ヘシ通り遠山氏ト意見交換ヲ
終リタル上ノ措置ニシテ遠山氏ハ配兵ノ實況ヲ見ラレタルモ撤
兵ノ要求ヲ受ケタルコトナシ

問 邦人砲手十五名ヲ貴下カ募集シテ戰地ニ引卒シ自ラ之レヲ指
揮シ實戰ニ參加セラレシトノコトナルカ果シテ然リヤ

答 自分戰地ニ在リタルハ事實ナリ然レトモ自ラ砲手ヲ募集シタ
ルコトナシ邦人砲手カ戰地ニ來リタルコトヲ承知シ居ルモ之レ
ヲ指揮スルハ自分ノ任務ニアラス本問ニ關シテハ必要ニ應シ總
領事ニ直々御答致スコトト致シ度シ

在奉天日本總領事館

右録取ヲ讀聞ケタル處無相違旨申立自署シタリ

大正十五年五月二十日

在奉天日本總領事館

荒木五郎

書記生坂内彌代記

在奉天日本總領事館

附屬書類添付

電報 細註

抄

13

大正十五年六月八日

在新民府

副領事 遠山 峻

極秘

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

情報部次長

大正十五年六月八日附機密公領第二四號
奉天總領事宛公信寫送附

外務省
受領
77

在奉天總領事館新民府分館

二四

大正十五年六月八日

在新民府

副領事

遠山 俊

在奉天

總領事 吉田 茂 殿

在奉天總領事館新民府分館

暗

大正十五年三月十五日解任、小島俊保

(美濃半裁野紙) 圖納

劉友惠、蘇士明、盧春芳等三名

脱出ニ関スル件

本件ニ関シ七日朝、耕耨世英、西名カ、小島ニ而訴テ
ホメ貝ノ語ニ所ニ依ルニ一行中、劉、蘇、盧ノ三名ハ
家庭ノ事情等ニテ、奉天總領事ニ文ヲ送リ、結果ハ、待テ
長シ能ハズ、豫ニテ脱出シ、同ニ絶エ、其ノ機
合ヲ伺ヒ、所ニ本朝ノ前ニ一時頃、警備ヲ懈ル
際ニ乘ジ、官館ヲ脱出シ、奉天ヲ經テ上海、天津、方而ニ
伺ヒ、數ヶ日、所ニ懇テ、即チ保護トシ、盡力ニサシテ
無所ノ斯ニ、夢ニ出デ、ハ誠ニ中説無キ、次ヲサシモ、事情
嚴重ニテ、即チ諒察ノ上ニ、偏ニ御容情ヲ乞フ、トテ、趣テリシカハ
小島ハ、此ニ發生シ、今更ニ致方ナキモ、西人ハ、外ノ人々
トハ、思フ、以テ、充テ、自重シ、以テ、際、余リ、輕蔑ニ出、サシ

外務省

(美濃半裁野紙) 圖納

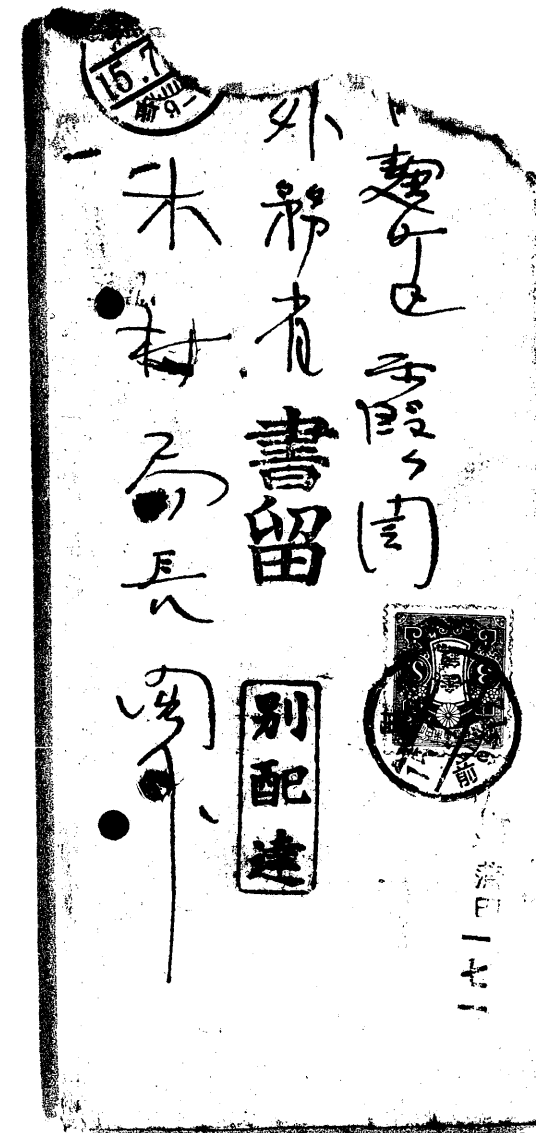
様セ、ウシキ、旨注意シ、其ハ、五ケリ

就テ、本件ハ、貴總領事ノ支那側ニ対スル御立合モアリ
冒裏ニ、~~林~~、脱出ノ際、ト合標差、當リ、絶對ニ支那ハ、
漏洩ヲ防止スルハ、既チ必要ト認メ、直ニ使用支那人全
部ヲ召住、密ニ嚴密ニ御命ニ、一ツ方、召召、召召、召召
ニテ、支那ノ官署、密ニ、動靜ヲ探査セシメ、召召、召召、召召
ノ所、彼等ノ脱出ヲ感知シ、様ナリ、多分、安全也、然レニ
逃シ、モ、ト、思ハル

右不取敢報告ス

市官、字、失、外務大臣、在、支、公、使

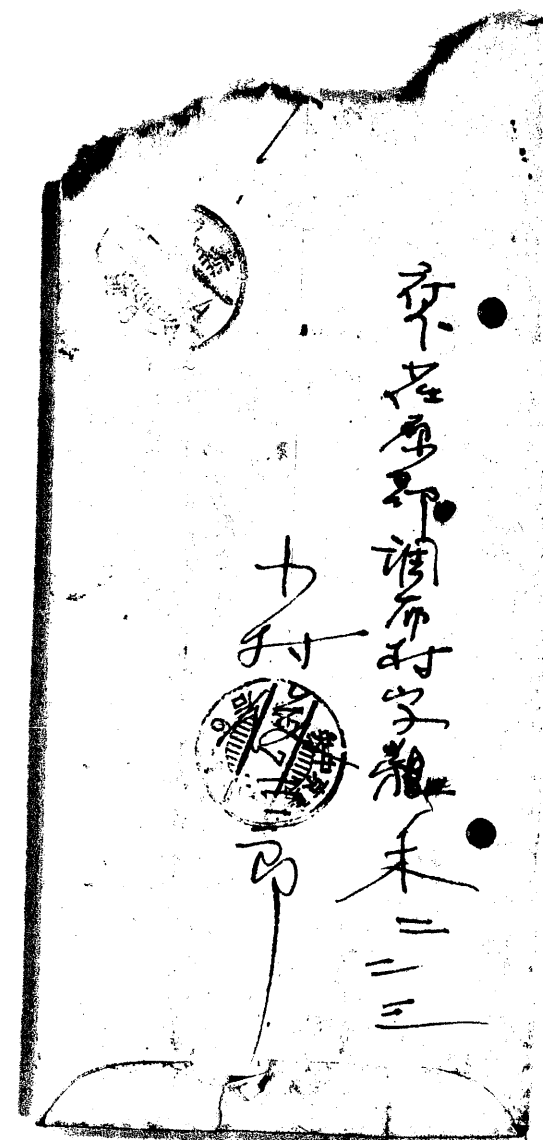
外務省



REEL No. A-0746

0100

アジア歴史資料センター



REEL No. A-0746

0108

アジア歴史資料センター



100

招我良伴共遊心水

6

[illegible]

[illegible]

木村高太郎

後人

和 14

拜啓陳者殷汝耕等釋放ノ件其ノ後在舊遷延今日ニ及ヒ候處今ヤ奉天
派内部ニ於テモ楊宇霆ハ右釋放ニ敢テ異存ナク唯張學良ノミ反對シ
居ル趣ナルノミナラス他方奉天派ハ國民軍ヲ徹底的ニ殲滅スルノ到
底不可能ナルヲ悟リ多少國民軍側ト妥協ノ餘地ヲ存シ置カムトスル
傾向無キニシモ非サルカ如ク旁々今日ニ於テハ殷等遁入ノ當時ニ比
シ四圍ノ事情頗ル變化シ來リタルモノト認メラレ候ニ付テハ本件ヲ
此ノ上放置スルハ我カ面目上甚タ忍ヒ難キ次第ナルト目下當方ニ於
テハ内密ノ儀乍ラ近ク遠山主任ヲ他ニ轉セシメ度意向モ有之ニ顧ミ
此ノ際貴官ニ於テ松井顧問トモ連絡ノ上奉天側ニ對シ正式ニ殷等釋
放方ヲ申入レラレ茲ニ本問題ヲ一切解決シ了ル様可然御配慮方希望

(已號用紙) 圓納

外務省

(已號用紙) 圓納

ニ不堪次第二候尙本件ニ關シテハ過般小村俊三郎氏ヨリ參謀本部松
井第二部長ニ松井顧問ヲシテ張學良不在ノ際殷等釋放方ヲ實行セシ
ムルコト可然ト思考スル旨勸告シタル由ニテ此ノ旨同部長ヨリ松井
顧問ニモ通シ置キタル趣ナル處松井部長ノ談ニ依レハ松井顧問ハ楊
宇霆ノ意向ヲ確メタルニ同人ハ異存ナキモ張學良等ノ強固ナル反對
ヲ排シテ迄モ決行スルノ意氣込モナク又必要モ感セサルニ付此ノ上
ハ貴官ヨリ正式ニ交渉ヲ開始セラルレハ之ヲ切懸ニ楊宇霆モ側面援
助スルナラムトノ意見ノ由ニ候御參考迄申添候 敬具

大正十五年七月七日

外務省

15

電信課長

官 臣

亞細亞

歐米通商條約
人情事
文書
會計

寫送先

件名	續込名

6685 (暗) 39

新民府後 (奉天中継 七日 辰 〇 〇 〇)
本省 着 大正十五年七月八日 辰 九 三 〇

幣原外務大臣

遠山分館を任

第三号 (七日 辰)

(極秘)

当館ニ居残り店タル殷地耕着在英、楊夢周
ノ三名ハ遂ニ昨迄多額ヲ脱出シ今日午辰六時
安全地帯ニ到着セル趣ニ付不敢報告ス
尚本件ハ支那側トノ關係モ有ルヲ以テ此迄着毛
島分館絶作外部ニ漏ラサル様充分注意致シ
居ル次第ニ付右御言之上可然御取計相成度ニ
在支公使ニ轉電ニ奉天ニ暗送セリ

③
血

6685
(暗) 39

新民府後
今省着

大正九年七月八日 府九三〇

幣原外務大臣

遠山分館主任

第三号

(極秘)

当銀ニ居残り居タル般就耕者古英 楊夢周
ノ三名ハ遂ニ昨迄当銀ヲ脱出シ今日午後六時
安全地帯ニ到着セル趣ニ付不致敢報告ス
尚本件ハ支那側トノ關係モ有ルヲ以テ逃査者モ
当分間絶停外部ニ漏ラサル様充分注意致シ
此後亦三村右御旨之上可然御取計相成度ニ
在公使ニ密電ニ奉天ニ暗送セリ

正

6685
(暗) 39

新民府發
本省着

大正九年七月八日 九三〇

幣原外務大臣

遠山分館主任

第三号

(極秘)

当館ニ居残り居タル殷此耕者古英、楊夢周、
ノ三名ハ遂ニ昨夜当館ヲ脱出シ今日午六時
安全地帯ニ到着セル趣ニ付、敢て報告ス。
尚本件ハ其側トノ關係モ有ルヲ以テ逃去者モ
当分間絶侍外部ニ漏ラサル様充分注意致シ
此次第ニ付右御意ノ上可然御取計相成度ニ
在公使ニ特電シ奉天ニ暗送セリ

16

電信課長 藤

次官 楊

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人事 文書 會計

寫送先

件名	綴込名

7月10日午前二時
7月10日午後二時
本署着たる五年七月十日午後二時

幣外務大臣 吉田總領事

第二一號(十日前)

(極秘) 殷前楊ノ三右新氏府分館脱
出、次第ハ同館為閣下免弟報
第三號ノ通ナル一昨ハ日當地着
ノ報告ニ接セル付上ハ一忒速
安全地帯ニ去リテ當分其行動ヲ
秘密ニスル様態況シ其結果殷前

ハ各井上彦、山本條助ト著
シ昨九日午後一時當地若朝野
經由ニテ一日途ニ就キ楊夢周(著)
名田中正一、同夜大連ニ向ヒ上河
若ハ一、二、赴リ管、
在又公使一、赴リ管、
(終リ)

17

電信課長 藤井

傷

亞細亞

歐米通條約
人情事報
文書計

寫送先

件名	綴込名

奉天発 七月十一日 午後五時五十分
 本有者 大正十五年七月十一日 午後五時五十分

幣外務大臣

吉田総領事

(極秘) 某

本官は南東廳長官宛電報第四大号
 豫新民政分館ニ逃避中ノ殷勤耕等逃亡セ
 る旨種々誇大ノ報道が当地ヨリ打電セラルル形跡
 アリ右ハ時節柄其ノ偽紙上ニ載セラルル
 而白カラズト認ムルニ付貴廳管内各新聞社ニ対シ
 誇大ナル記事ヲ掲載シテ支那側ノ神疑ヲ

刺激スル方法ニ出デズ様ルニハク取締リアリタ
 ク当地新聞ヨリ対シテハ一カニが記事ヲ差止メ
 本件ニ付テ貴館ノ得タル事實ヲ明日新聞ヨリ記
 者ニ説示スルヲ等ナリ
 外務大臣在支公使へ轉電セリ

奉天から日本へ

「大正十三年十一月一日、張邦氏が以て親戚也日本領事館へ訪ねて来た。邦氏の親戚な親戚の下に置かれ居た邦外分館長、股役、親戚等の七氏は、皆監視の卒丁に拘束し、脱走を許さず、七日の五名は皆捕へる。翌ては七月七日迄までに、八人餘の卒領事館分館長を出し、一まつ突進にやけるそれぐの安全地带に遷した。邦氏をよびが舞臺した側股の張邦氏をよび、他の三名は去る日夜卒天、親戚別にて日本に向つたが股氏は大股に往くはす」

支那側日本
を疑ふ

「憲天」は昨十一月一日、即ち昨年の強
那親王の即位したため、日本領事館に
登録せられた。新親王の股分は、高松
藩主等七名が、今回親王府の日本領
事館へ提出した。これにつき支那側
のお領事館をめぐひ二二通りで
なすの旨分は、
昨年の強那親王の際日本領事館は
與たに地方より出た便宜官
等と、しかも今回の股分松氏
等の提出、新親王府の日本領事
館が奉天領事の指圖によりて取
計つたのである。股分氏等輸出
の最要領事等も全部領事館が提
供したものである。同じ領事館
内に居て、領事税出の協議を
續けたりしたは、據するは股
分氏等、殊に領事の如きは、股
分松氏等に毎度、下直やカシ
ム品を送つて慰め、ある日を
詰めてある。然し四月に一
度六月に一提議出したを、略し
て今まで知らなかつた。大都會
の行儀は今回の三度目の提出を
はからんとした。彼等皆が無断
で領事館を脱出した。それによ
り、數日新親王府の筆山領事
が安東に轉任するに至つた。つ
のも要するにうささい交渉を違
ける爲であらう。さういふ譯の
に、領事館が今後如何なることを
申し出て、今これに應ずる爲
は、推して知るまい。

18

情報部次長 小村

電送第4647号
昭和十五年七月十二日午後一時分發

電信課長	主任	(起草) 昭和十五年七月十二日	(原議用紙甲) 圖納
件	殷子脱出、等件	名込綴	
宛	在奉天 吉田総領事	發、 幣原大臣	
暗	第一〇〇號		
(多分必及記)			
貴電第四〇六号、其二十日聯合通信貴地 特派員ヨリ轉道、次才アリタルニ依リ之カ 為表方差止メ置キタル、 宛貴電第四〇六号、其二十日、 結果、 十二月			
電信案	外務省		

(原議用紙乙) 圖納

電信案	外務省
東京朝日ハ十一日為貴地特電トシテ 殷等ノ脱出ヲ報スルト其ニ支那側ノ言 令トシテ本件ハ貴方ノ指圖ニ基クモノ ニシテ遠山ノ村任モ今後ノ面倒ヲ辟ケ ムカ為メナリ云々ト報道ニ居シト東 件ニ其ノ南方面ト其方ニ於テ各 面ト接觸ノ都合ニ付新聞記	

電 信 案	外 務 省	者ニ対スル兼有説明振折返し回電アリガ
		在支公使ハ付電アリガ

(原議用紙乙) 圓納



次官

一

亞細亞

寓送先

6779
暗
139

奉天省著

大正十五年七月十一日 后二五〇

十
二
十
二
十
二

綴込名

件名

第二〇二號 (十二日前) (極秘)

往電茅二〇一號

版商其他，釋放才付予張

作霖楊宇庭著
再三
魁心談

童 不 未 良 其 代 表

涿州郭軍，本營赴

城秋少佐荒木肇奇、為二單倒

ト了案之ヲ曾ニ作
市林ニ客

角、護誣ヲ為シタル結果殷奇
 弁ニ對スル作霖ノ一惡感情増
 シ初ハ忠ニ角時リ經ニ徒テ張
 登々聞入ル、色無ク一面張吳提
 携國民軍總攻撃ヲ決セリ以テ
 到底其釋放ヲ口占ノ間ニ經ル
 ハ難シク然リトテ何時迄モ其
 儘ニ棄テ置テ難ク以テ是迄ハ
 殷奇弁ニ對シ頻ニ自重シテ時
 至ニリ待ツ様ト説キタルモ去月
 中旬遠山主任ニ告テ倉ナ爾分
 釋放ヲ得ルニト難シキヲ以テ最早

敢て引止むる意を暗示せしむる
 二彼等之豫め脱出する決意を
 露れ、因むに、此際脱出スル
 二決心を遂に、今、決行する
 第一、去る本月八日、殷力者地
 著せし報り得たり、以て、彼
 等ヲ招き可成速に當地より去
 ルト告ぐ、當分、向、前、事、行、動、ヲ
 慎重ニスル様、是を、申、聞、ケ、翌
 日、釜山ニ向ハシタリ、
 然るに、同人等、脱出ノき、引ニ當

地邦人一二、頼三、込、三、ト、當地
 滞在中、聯合通信、櫻井ニ面會シ
 櫻井ハ、當館ニ何等相談無
 殷等ヨリ、南、カ、儘ニ、本社ニ、打、電
 二又、當地通信員ニ、漏シタルカ、為
 本件、在、上ニ、費、表、セ、ルニ、至、リ、タリ、
 本件、經過、右ノ如ク、御、之、或ハ、釋、放
 手段、不、穩、當、ト、御、之、有、ハ、シ、
 ト、存、ス、ル、事、情、何、分、御、諒、察、請、
 在、支、公、使、ハ、報、電、セ、リ、



電信課長

大官

信

亞細亞

會文人情條通歐
計書事報約商米

寫送先

件名
綴込名

以人暗子奉て茲
本省着下五年七月十日午後八
幣外積不恒 吉田總領事

至急
第二。三號(丁二日返)

(極秘)
殷才脱出ノ事情ニ付テハ往高
ニニ號ノ通ル如常地新ヲ社ニ
對シテハ殷才力能宣付的談話ヲ
其代報道ニ危險アリレテ一応
記事差止メる事情ヲ説明シ今

收共對支那側關係有ハ慎重
ニ報道スル様戒告スルト共ニ脱出事
實ノ質問ニ對シテハ遠山主任ヨリ
報告ノ任ヲ發表シ又支那側ヨリノ
質問如何ニ付ラハ未ノ何カ其事
無キヲ告ケ置キタリ
尚殷才ハ當地着ノ節本官ニ對シ
書面ヲ以テ脱出ノ事實ヲ告ケ本官
ノ意ニ及シ脱出ヲ計リタルニ付更カ
ラスト申越タル様次第ニテ本官
ヨリ遠山ニ為テ含メタル事柄
ハ彼才自身ニ承知セサル筈ナリ從テ

半第第一。第末段ノ如キ立入リタル
推測ヲ以テ之ニ當館ニ問合スモ
テウ着シ又其場合アリトテモ般自
ラ脱出ヲ計リタルモノニテ官邸ノ知ル
如ニ非スト云々分館主任ノ
更迭ニ付尋ネタル記者アリレカ右ト
毫モ係俾テキ者ヲ告ケタリ
在又公使ノ轉モセリ。

(終リ)。

2/

外務省文書課
受第 91
15.7.22

外務省文書課
受第 91
15.7.22

機密

亞細亞

第一課甲

第九〇號

機込名

大正十五年七月十六日

在新民府

副領事 遠山 峻

新民府
日本帝國
副領事

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

殷汝耕等脱出後、状況ニ関シ
報告ノ件

晨ニ殷汝耕等脱出ノ件ハ拙電第三號
ヲ以テ不取敢及御報告置キタル通ナ
ル處當館ニ於テハ對支那側關係モ有
之コト故成ルハ、
奉天總領事館新民府分館

ナル様嚴重且ツ周到ノ注意ヲ拂ヒ
ワ、アリタルニ偶々脱出シタル殷汝
耕カ危險地ニ帶リテ免レ得タル安心
ヨリ終ニ不注意ニモ聯合通信社
奉天支局長櫻井重義（平素同人
ト親交アリタルモノ、如シ）ニ面會シタ
ル爲メ端ナクモ本件外部ニ發表
セラレタルモノ、如ク誠ニ遺憾トスル
所ナリ就テハ本月十一日在奉天總
領事ヨリ本件ハ既ニ一部新聞記
事トシテ發表セラレントシ、アル状勢
ナルヲ以テ當館進入者監視ノ責任
者タル縣知事ニハ平素ノ親交上一應

内案本件脱出ノ事實タケヲ簡單ニ非
公式ニ通知シ遣リテハ如何トノ御注
意ヲ受ケタルモ果シテ新聞ニ如何ナル
記事掲載セラル居ルヤ不明ナルニ付
一應右新聞記事ヲ見タル上ノ模様ニ十
スフトニ考ヘ居タル處翌十二日當地
着ノ盛京時報ニ單ニ殷等ノ一行カ當
館ヲ脱出セリトノ記事アリ同時ニ此
記事ヲ見タル縣知事ハ交渉員ヲ當館
ニ派シ右脱出ノ事實ヲ尋ネ来リタル
ヲ以テ小官ハ極メテ簡單ニ殷等一行
ハ我々ノ目ヲ盗ミ之突然脱出セルハ事實
ナリ依テ今平素ノ友誼上一應口密

在奉天總領事館新民府分館

知事ニ此事實ヲ御通知セント考ヘ居
タル所ナル旨ヲ答ヘタルニ交渉員ハ惶
惶トシテ辞去セリ其翌即チ十三日夜
知事ハ密カニ小官ヲ來訪シ本件ニ関
シ今後自分ノ身上ニ關シ成ル一ウ有利
ニ解決セラルル様御助力ヲ願ヒ度ク
右ハ平素ノ親交上折入テ御願スル次
第ナル旨語レルヲ以テ此際小官ハ成
ルヘク知事ニ當方ノ好意ヲ示シ置ク
コト必要ト考ヘタルニ付在奉天總領
事ト協議ノ上未得ル限リノ助力
ヲナスヘキ旨ヲ答ヘ置キ此趣在奉
天總領事ニ御相談申上タル處今

總領事ハ自分ノ考ヘトシテハ別ニ本件ノ為ニ知事ノ生命ニ關係スルカ如キコト萬ナカルヘシト思考スルヲ以テ在迄狼狽スルノ必要ヲ認メサルモ萬一カハル場合ハ本末得ル限リ生命等ニ關係ナキ様助力スヘキニ付安心スヘキ旨ヲ先方ニ答ヘ置キ差支ナキト御意思ナリシヲ以テ早速昨十五日中日書記生ヲシテ右在奉天總領事ノ御意思ヲ知事ニ通セシメタルニ知事ハ頗ル満足ノ色ヲ浮ヘ何分宜敷御願申上ラ而自分ハ今夜一應去奉スヘキ旨ヲ語リタルヲ以テ多分昨夜出奉セルモノト思ハル

在奉天總領事館新民府分館

尚知事ハ本件ニ關シ責任上免官位ハ到底免レサル運命ナリト覺悟シ居ル模様ニ見受ケラル、モ氣紛レサル奉天當局ノ事故或ハ自己ノ身邊ニ危險ノ及ツカ如キコトナキカニ付頗ル憂慮シ居ルモノ、ハ如シ
尚本件ニ關シテハ萬事ヲ奉天總領事ニ御相談申上ケ一切全總領事ノ御指圖ヲ俟フテ措置致シ居ルニ付御含遺相成度シ
右御參考迄其後ノ状況概畧報告申進ス

水信島送付先 在支公便

尚

7486 晴 奉為要
本府属 大守平介 五段四五
敬蒙外務大臣 吉田總領事

第三二六號

往運第三番船(南)

其後改組 年 晚出 南を嫌て 薄く多へラ

以下遠山 副領事希望より 房、明、日、瀧山

副領事ヲ赴任し事務引継ヲナシメタキニ

合内子承ヲ請フ

外務省文書
第 198 號
151118

機密

亞細亞

第一五七號

大正十五年十一月九日

在新民府

副領事 龍山靖次郎

在新民府
外事

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

般汝耕等ニ對スル監視保甲隊
撤退ニ関スル件

本件ニ関シテハ、十一月十八日附機密
公第一三號密信ヲ以テ吉田奉天總
領事宛公信寫及送付置タル處、同
信未投報告、通外各以未般汝耕

在奉天總領事館新民府分館

等監視、為當該國國境界線配
置セラルタル支那巡警隊ハ、般
等脱出後ニ更ニ撤退、模稜ナ
クヨリ當該處ニ於テハ、再三其撤
廢方ニ就テ新民縣知事ニ交渉
シタル處、奉天當局ヨリ何等未
刻ナク其責任上自己一存ニテハ
之ヲ取計難キ旨ヲ述ヘ亦當該
隊ノ其後何等ノ不便ヲ感セリ
ルノミナラズ、却テ夜間、警戒
等ニ裨益スル所歟ナカラザリシ
ヲ以テ其儘放仕シ置キタル處
最ニ般汝耕等、痛為セシ警察

箱舎焼失後最近全部之ヲ撤退ス
ルニ至レリ
右ニ就キ當新民縣知事ハ目下保
甲隊不足ノ新制ニシテ而モ十一月
一日ヨリ縣内保甲巡警制度ノ改
正ヲ見タレハ之ヲ機トシテ撤退
セシメタルモノヤリト語レルカ般
汝耕等脱出ニ對スル同知事責
任上ノ處分ニ関シテハ亦タ奉天
當局ヨリ何等ノ訓令ニ接セサル趣
アリ
此般報告申進ス

本信為送付先

在奉天總領事館新民府分館
在支公使、奉天總領事